



塾生さん、いま何してる？



## 『塾生インタビュー③～岡村 君子さん～』

4月に新しく入塾した塾生のインタビューを掲載します！

塾生のことを知って、今後の成長を応援していただけると嬉しいです！！

- Q1 作り手養成塾への志望動機**
- A1 オケクラフトの人の肌のような、やわらかく、やさしくあたたかな木肌が大好きです。親が子に触れるように、大切な人にあたたかなステップを渡すよう想像していました。

- Q2 置戸町のイメージは？**
- A2 初めての人も笑顔で迎えてくれるフレンドリーさや、親身になって考えて下さる様子に驚きました。みなさん置戸町が大好きで、仲間意識が強いのに転入者も同じく接していただいて、とてもあたたかく嬉しく思っています。

- Q3 オケクラフトについての感想**
- A3 商品やブランドとしてのオケクラフトしか知らないのですが、歴史を勉強させていただき、今まで以上に興味が強くなり、木やオケクラフトに関わる人たちに尊敬の念を持つようになりました。

- Q4 今後の目標は？**
- A4 見映えが重視される現代ですが、オケクラフトの五感で想いを伝えたり、オケクラフトと一緒に届けたいです。

- Q5 町民の皆さんへ一言**
- A5 置戸に来てから子供達も私も笑顔が増えました。いつもやさしくして下さるみなさんのおかげです。ありがとうございます。どうかこれからも親子ともどもよろしくお願いいたします。

## 【衣食住 - 衣を作る道具（鎌-コテ-）】

今回は日常生活を送る上で必要不可欠な衣食住の中から、「衣」に関する道具、「鎌(こて)」を紹介します。

→鎌とは鎌先とそれを保持する柄から成り立っている道具で、業種・用途・素材によって形状や材質が異なります。

日本の衣服といえば、日本のみならず海外においてもその美しさや裁断方法が非常に高く評価されている和服があります。和服を作る際にも専用の鎌がいくつか使用されています。

一つ目が「火熨斗（ひのし）」。火熨斗は現代のアイロンの役割を果たします。火のついた炭を金属製の容器に入れて加熱し、容器の底で布のシワを伸ばすようにして使われました。容器には蓋がなく、炭が爆ぜると生地を焦がしてしまうため、使用には注意が必要でした。

二つ目が「裁縫鎌」。火鉢や囲炉裏などで先端を温めて、その熱で細かい部分のシワを伸ばす他、裁縫の仕上げにも使用されました。小型のため、大きな面積への使用には適しませんが、より細部のシワを伸ばすのに重宝されました。

三つ目が「平鎌」。着物や羽織などに家紋を染め抜く紋章上絵師が、描いた家紋を乾燥させるために使用する道具です。

このほか、秋岡資料には靴や革細工に使用される専門の鎌も保管されています。

今日は何を知ろうか xxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxx



**今月の一品**

かくれた一品 おすすめの一品  
毎日 オケクラフトとともにいる  
私たちの一品をご紹介します！

商品名：盛皿  
樹種：エゾマツ  
サイズ：①直径 240mm ②直径 270mm  
③直径 300mm ④直径 330mm  
※高さはすべて 52mm

価格：① 6,930円 ② 9,130円  
③ 10,890円 ④ 14,520円  
※金額はすべて税込表記

私がおすすめする今月の一品は、**TORI工房**の「盛皿」です。なだらかな曲線の大皿は、立体感があり盛り付けやすい形です。お惣菜はもちろん、お鍋の隣に葉もの野菜や具材などを盛つても見栄えがします。また、これから季節には冷たい蕎麦やうどん、そうめんを盛り付けてみてはいかがでしょうか。銘々になら二十四cmを、家族一緒に盛り付けでしたら三十cmをおすすめします。サイズ展開の種類も多く、様々な用途によって選ぶ楽しみも加わります。



ショップ販売員 青島

**秋岡陽氏講演会終了のご報告**

3月28日、久しぶりに開催したどま塾「農家の土間・ぼくんちのドマ」では、どま工房名誉館長である秋岡陽さんを講師にお迎えし、改めて「どま」ってどういう空間なの?という疑問についての答えや、父親でありオケクラフトの生みの親である秋岡芳夫さんが「ドマ」にこめた思いについて、さらに未発表原稿としてこの度、『別冊太陽』に掲載された芳夫さんの原稿をご紹介いただきました。

当日は2回の講演会が開催され、工芸館職員や関係者の他、「ドマ」に興味を持っていただいた町内外、およそ50名が参加し、お話を耳を傾け、情報を交換しました。

【講演会の様子】

【講演会の様子】



毎月  
1日発行  
森林工芸館  
発行

こちらのQRコードから  
「森林工芸館のあれこれ」  
バッカンバーをご覧いただけます。



**森林工芸館・どま工房からのお知らせ**

3月28日、久しぶりに開催したどま塾「農家の土間・ぼくんちのドマ」では、どま工房名誉館長である秋岡陽さんを講師にお迎えし、改めて「どま」ってどういう空間なの?という疑問についての答えや、父親でありオケクラフトの生みの親である秋岡芳夫さんが「ドマ」にこめた思いについて、さらに未発表原稿としてこの度、『別冊太陽』に掲載された芳夫さんの原稿をご紹介いただきました。

当日は2回の講演会が開催され、工芸館職員や関係者の他、「ドマ」に興味を持っていただいた町内外、およそ50名が参加し、お話を耳を傾け、情報を交換しました。

3月28日、久しぶりに開催したどま塾「農家の土間・ぼくんちのドマ」では、どま工房名誉館長である秋岡陽さんを講師にお迎えし、改めて「どま」ってどういう空間なの?という疑問についての答えや、父親でありオケクラフトの生みの親である秋岡芳夫さんが「ドマ」にこめた思いについて、さらに未発表原稿としてこの度、『別冊太陽』に掲載された芳夫さんの原稿をご紹介いただきました。

当日は2回の講演会が開催され、工芸館職員や関係者の他、「ドマ」に興味を持っていただいた町内外、およそ50名が参加し、お話を耳を傾け、情報を交換しました。

3月28日、久しぶりに開催したどま塾「農家の土間・ぼくんちのドマ」では、どま工房名誉館長である秋岡陽さんを講師にお迎えし、改めて「どま」ってどういう空間なの?という疑問についての答えや、父親でありオケクラフトの生みの親である秋岡芳夫さんが「ドマ」にこめた思いについて、さらに未発表原稿としてこの度、『別冊太陽』に掲載された芳夫さんの原稿をご紹介いただきました。

当日は2回の講演会が開催され、工芸館職員や関係者の他、「ドマ」に興味を持っていただいた町内外、およそ50名が参加し、お話を耳を傾け、情報を交換しました。

3月28日、久しぶりに開催したどま塾「農家の土間・ぼくんちのドマ」では、どま工房名誉館長である秋岡陽さんを講師にお迎えし、改めて「どま」ってどういう空間なの?という疑問についての答えや、父親でありオケクラフトの生みの親である秋岡芳夫さんが「ドマ」にこめた思いについて、さらに未発表原稿としてこの度、『別冊太陽』に掲載された芳夫さんの原稿をご紹介いただきました。

当日は2回の講演会が開催され、工芸館職員や関係者の他、「ドマ」に興味を持っていただいた町内外、およそ50名が参加し、お話を耳を傾け、情報を交換しました。